

< 声明 >

## 久間防衛大臣の原爆投下容認発言に断固抗議し、即時罷免を要求する

久間防衛大臣は6月30日、広島、長崎への原爆投下について「悲惨な目に遭ったが、あれで戦争が終わったんだという頭の整理で、しょうがないなと思っている」と発言し、これへの反響、批判に慌てて「弁明」や「反省」をした。また、安倍首相は、「国民に誤解を与える発言は厳に慎むべし」としつつも、その職責は問わない旨を表明した。

アメリカによる広島・長崎への原爆投下は、いかなる条件や前提をおいても、人類史上許し難い大量殺戮であり、すでにハーグ国際司法裁判所も「一般的に国際法に違反する」と勧告（1996年7月）した行為であって、後からの弁明をいくら重ねようとも、到底免責され得ないものである。さらに、今回発言の文脈は、核兵器廃絶という世界と日本国民の願いに真っ向から反するとともに、国際情勢によっては核兵器の使用もあることを是とすることによって、わが国をはじめ各国の核兵器の開発・配備・使用の合理化にも道を開くもので、現実政治の問題としても看過しがたい。

日本科学者会議は、かつての日本が凶悪な戦争加害者であり、かつ甚大な戦争被害者であったことを肝に銘じ、人類の平和的生存をめざす科学者集団として、原爆の惨禍を再び繰り返すまいと願う被爆者、国民各界、および世界の運動と連帯し、核兵器廃絶を求めてきた。この立場から我々は、久間大臣に、発言の無条件全面撤回と謝罪とを要求し、安倍首相に、被爆国の政府として、世界に核兵器廃絶を求める姿勢を明確に示すことと、国務大臣としてそれにふさわしからぬ久間氏の即時罷免とを要求するものである。

2007年7月1日

日本科学者会議常任幹事会